

無世界

3.0

あ

100
COMIC MARKET
FRIENDSHIP FOREVER

シヨク
おね

おねシヨクでは
ありません



18歳未満の
購入・閲覧禁止

シヨク
攻

シヨクおねです
注意してください



金貨五十枚
それが彼女の値段だった

健康で傷もなく従順—
主人に逆らわないよう
魔法もかけられている

友達の借金を肩代わり
したせいで奴隷落ち
してしまったらしい

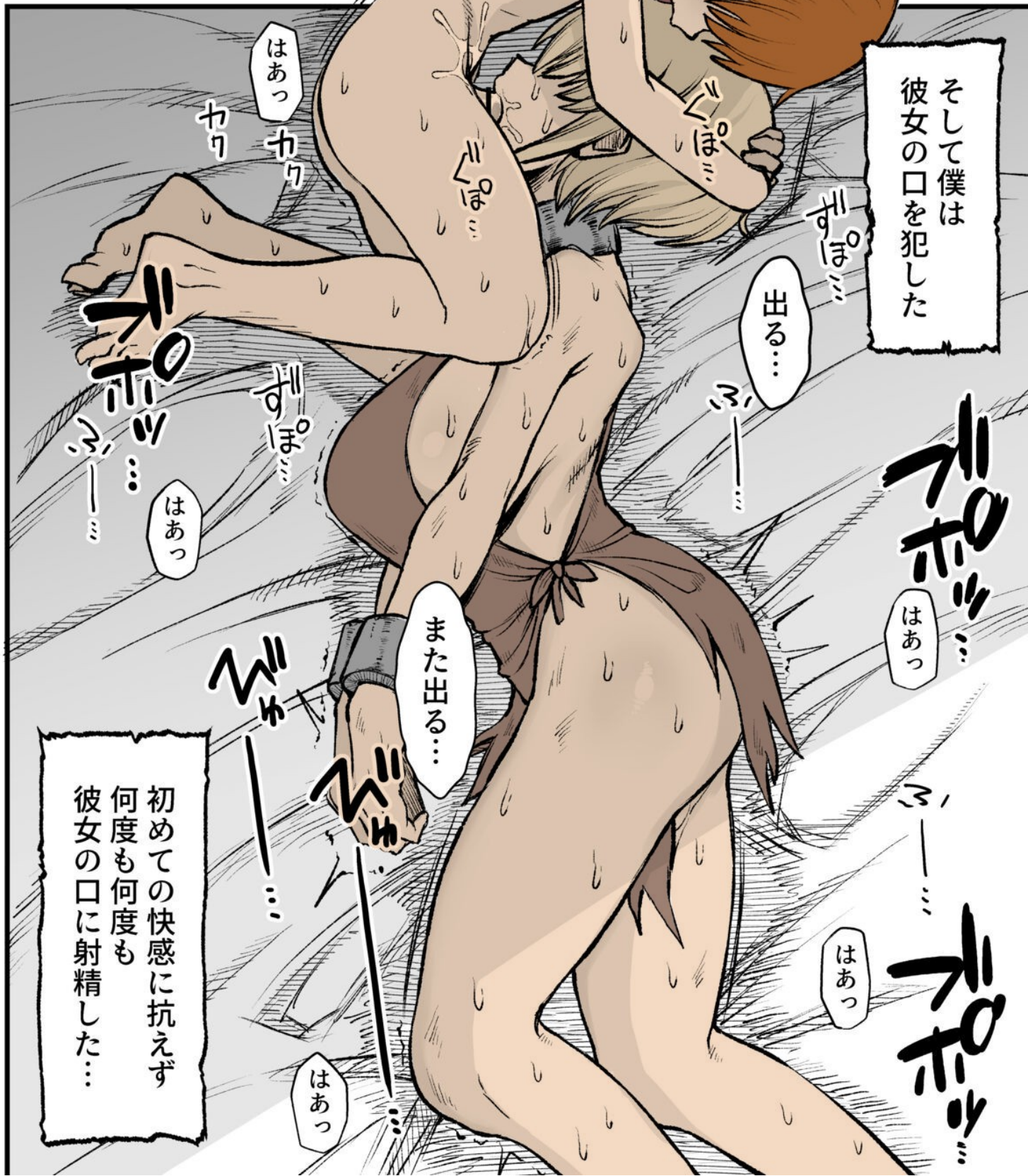
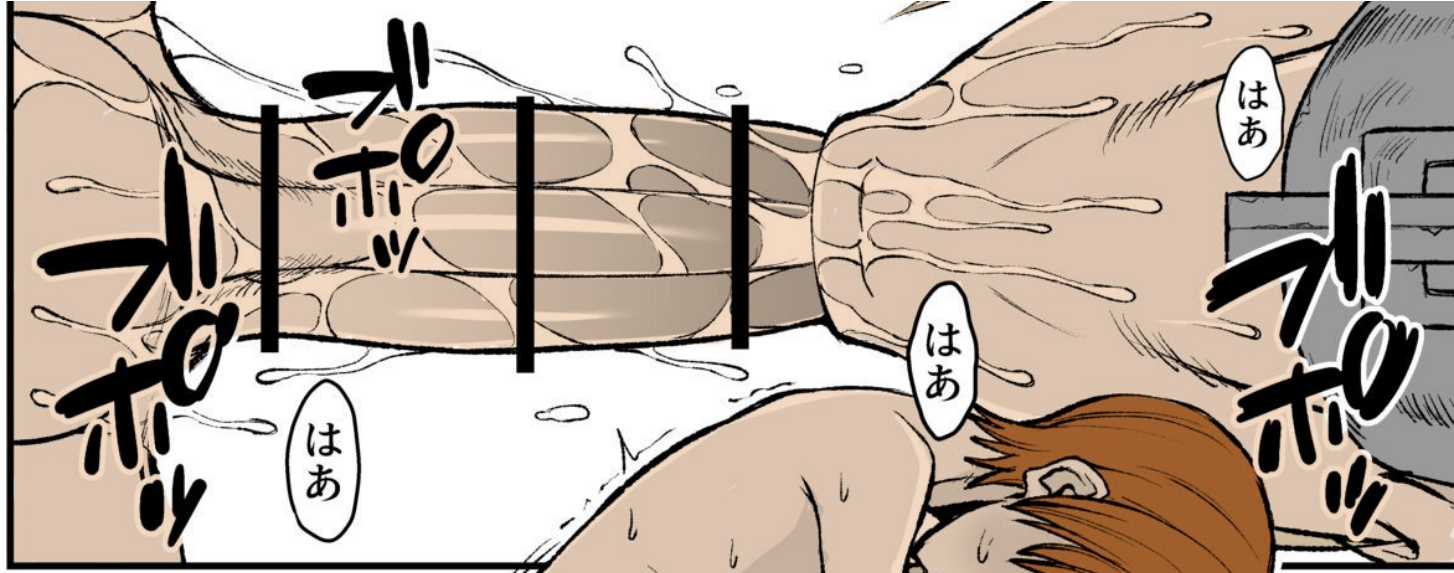
僕はお姉さんのことを
可哀想だと思った。
それと同時に—

これからこのお姉さんは僕のもので
なにを命令しても良いということ
好きにしていいたいこと…

服…

脱いで
くれますか？

不安そうにしている
表情を見て僕は…
興奮してしまっていた



はあ

はあ

はあ

そして僕は
彼女の口を犯した

出る…

また出る…

初めての快感に抗えず
何度も何度も
彼女の口に射精した…

カッポッ…
はあっ

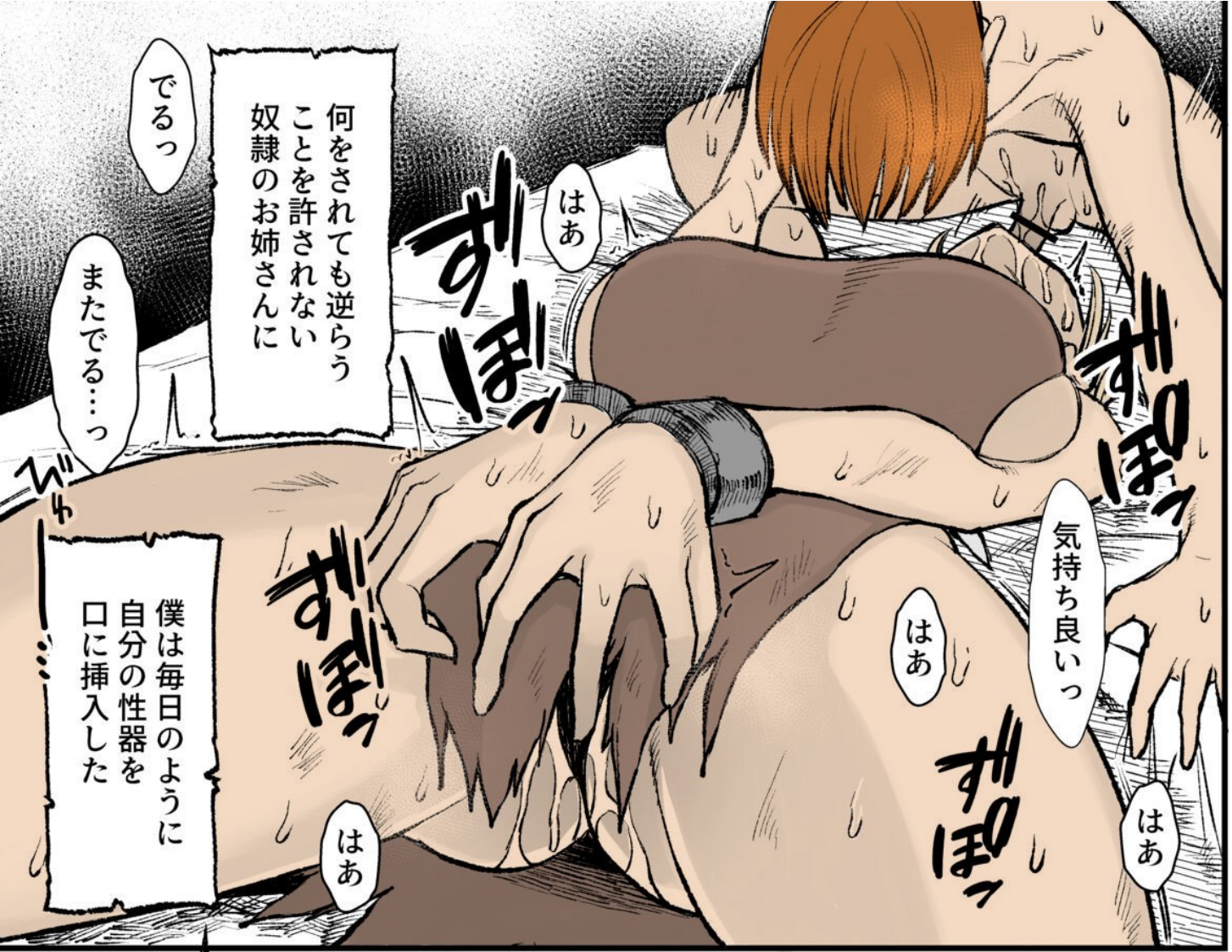
カッポッ…
はあっ

はあっ
カッ

カッポッ…
はあっ

カッ
はあっ

はあっ



何をされても逆らう
ことを許されない
奴隷のお姉さんに
でるっ

またでる…っ

僕は毎日のように
自分の性器を
口に挿入した

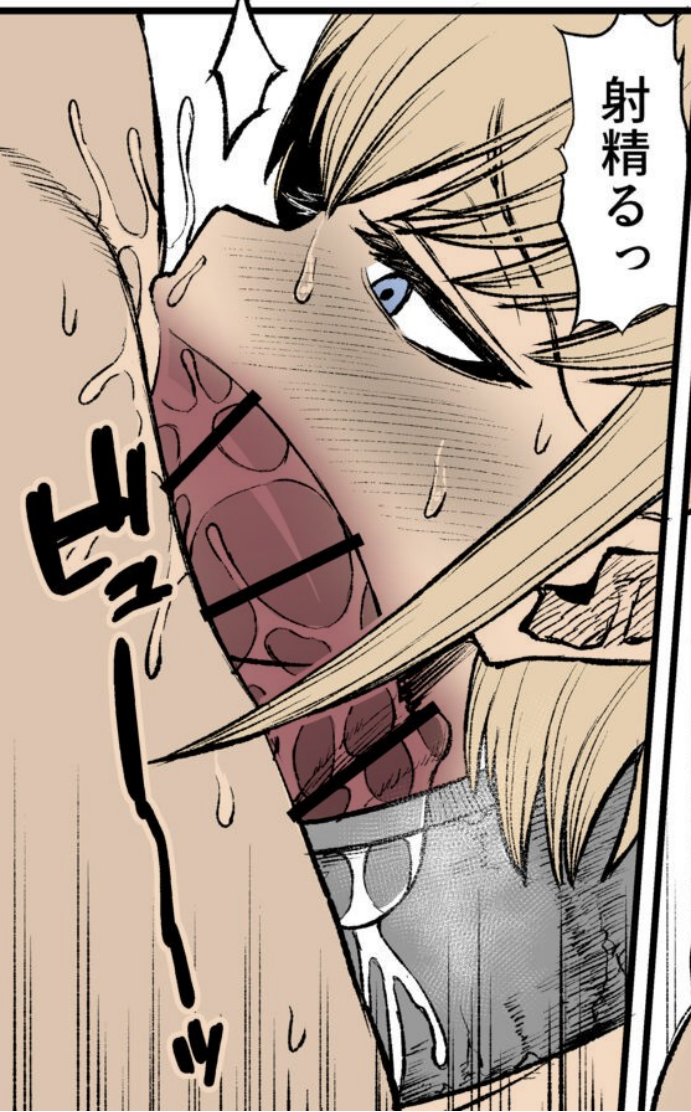
はあ

気持ち良いっ

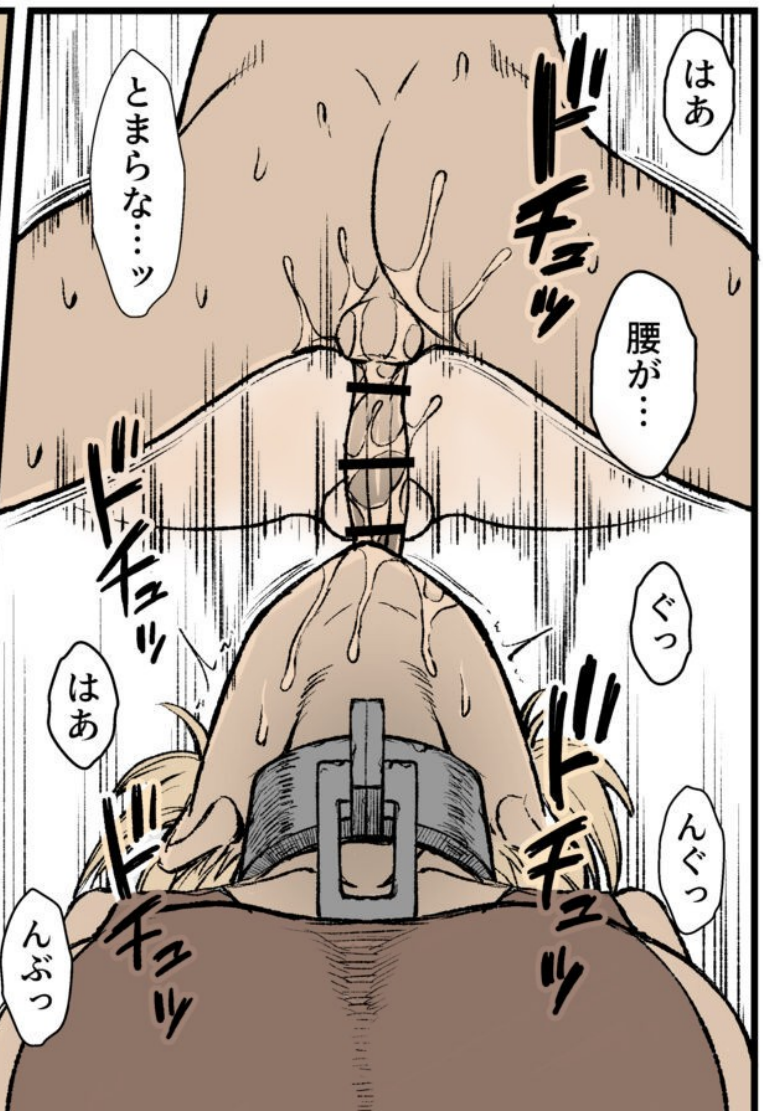
はあ

はあ

はあ



射精るっ



はあ

腰が…

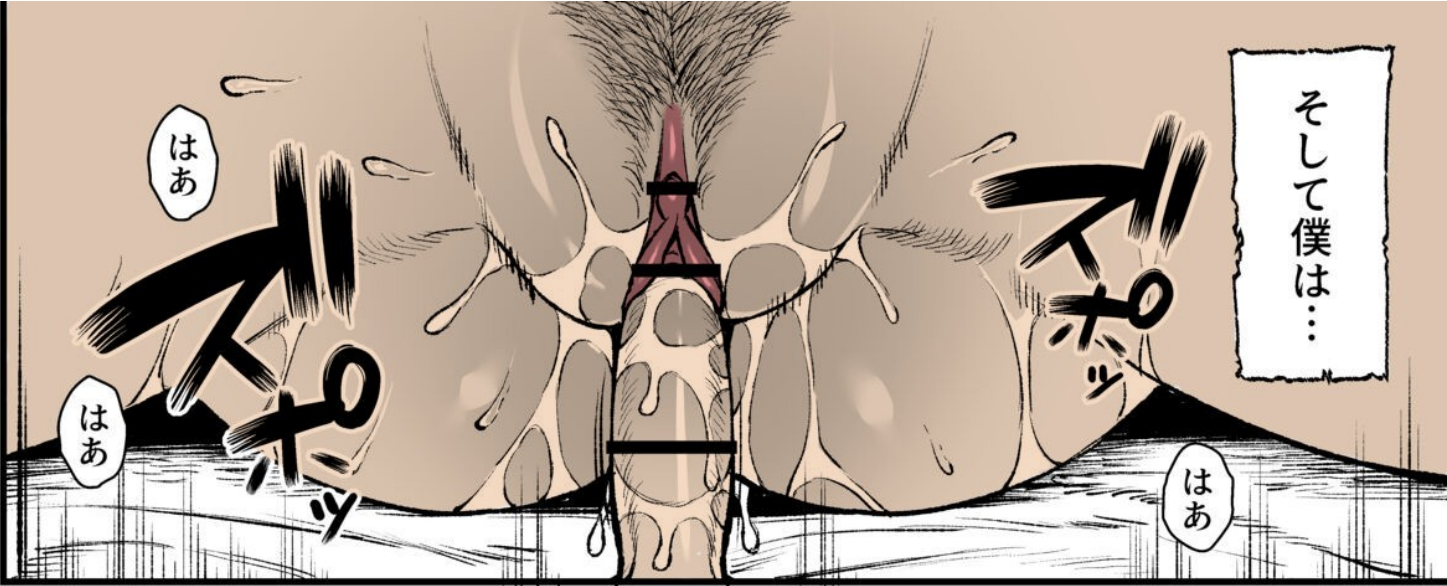
ぐっ

んぐっ

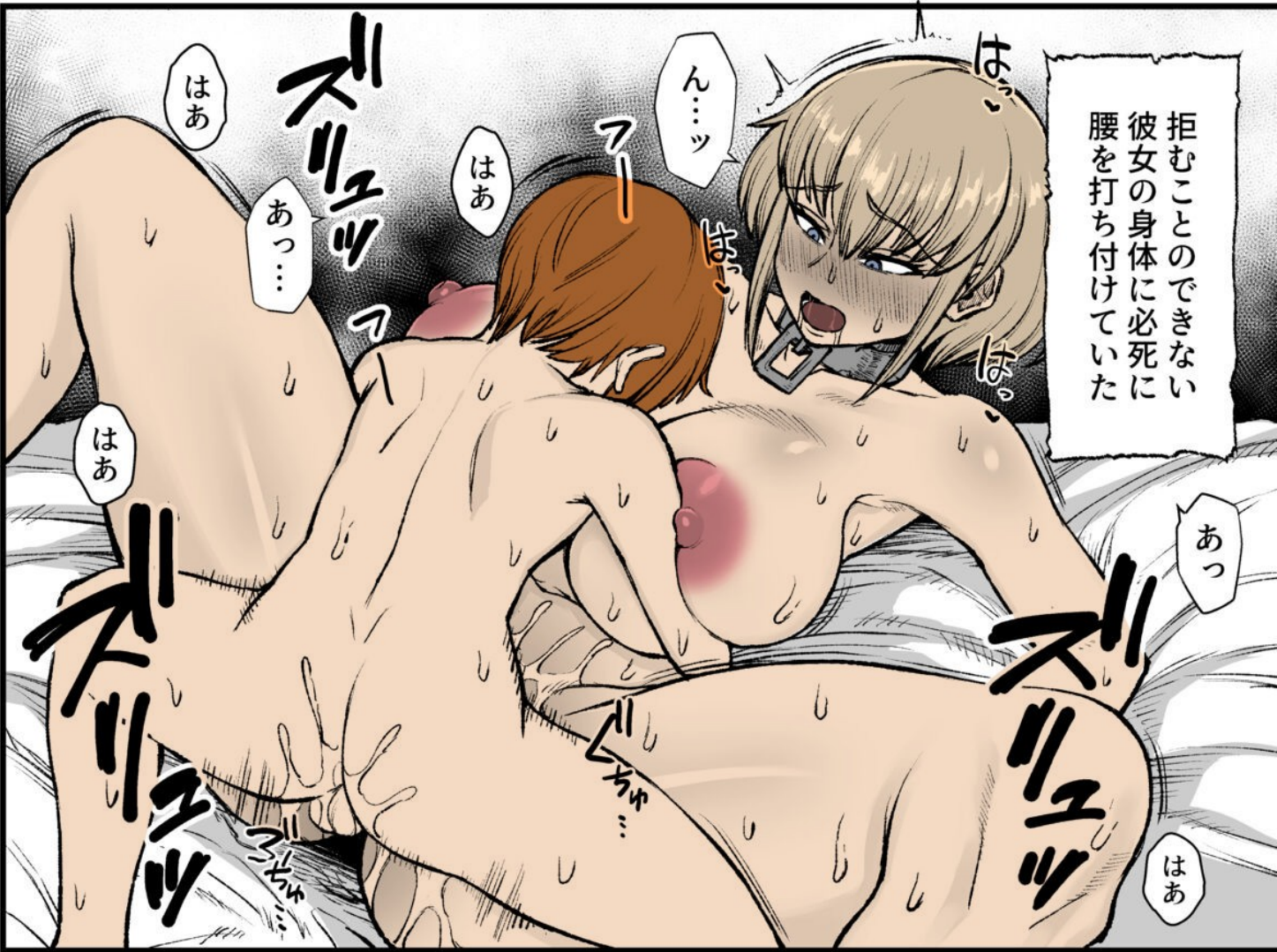
とまらない…ッ

はあ

んぐっ



そして僕は…



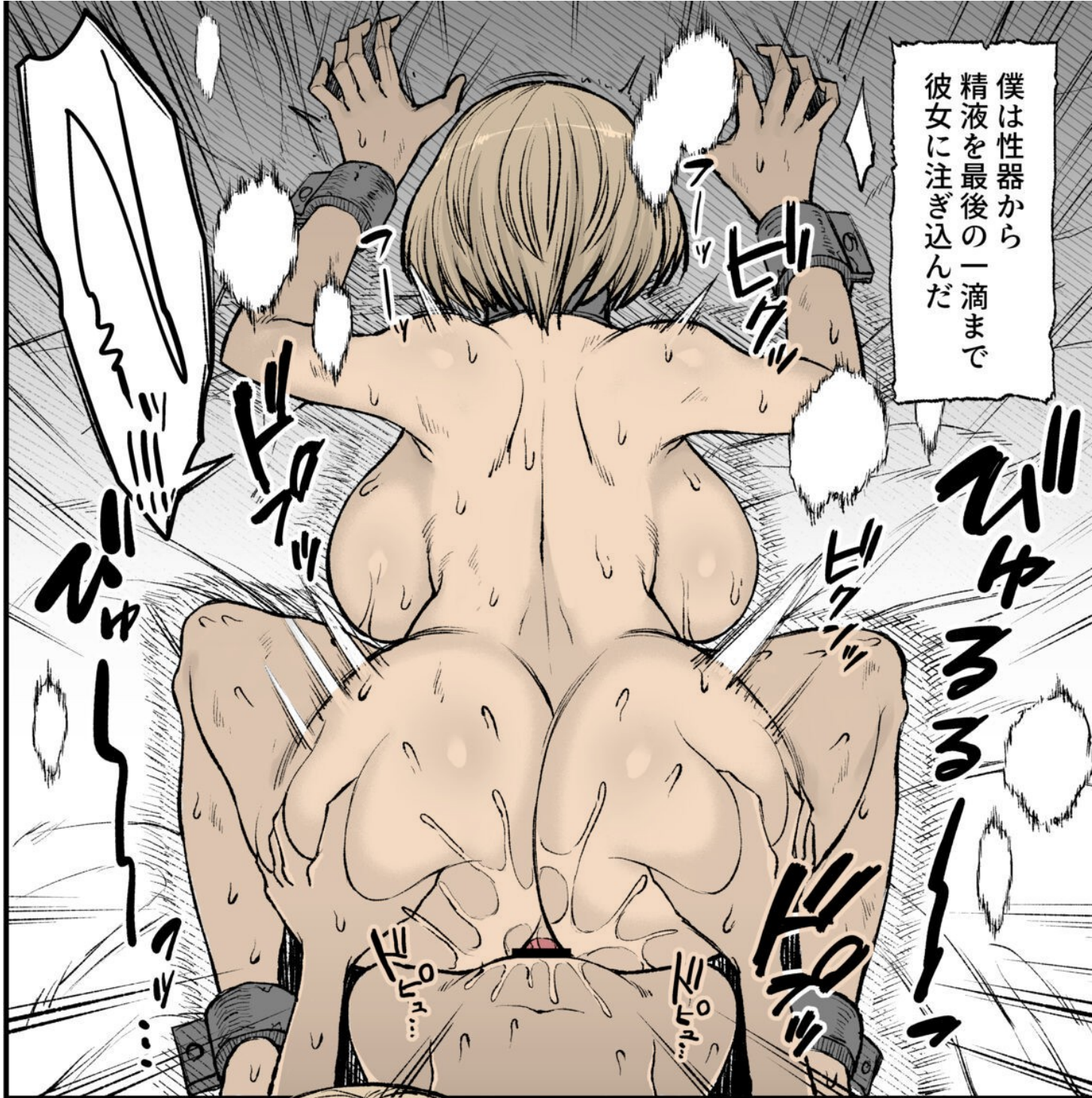
拒むことのできない彼女の身体に必死に腰を打ち付けていた



舌を出すと自ら舌を絡めてきた

僕を受け入れてくれたみたいで興奮した

僕は性器から
精液を最後の一滴まで
彼女に注ぎ込んだ

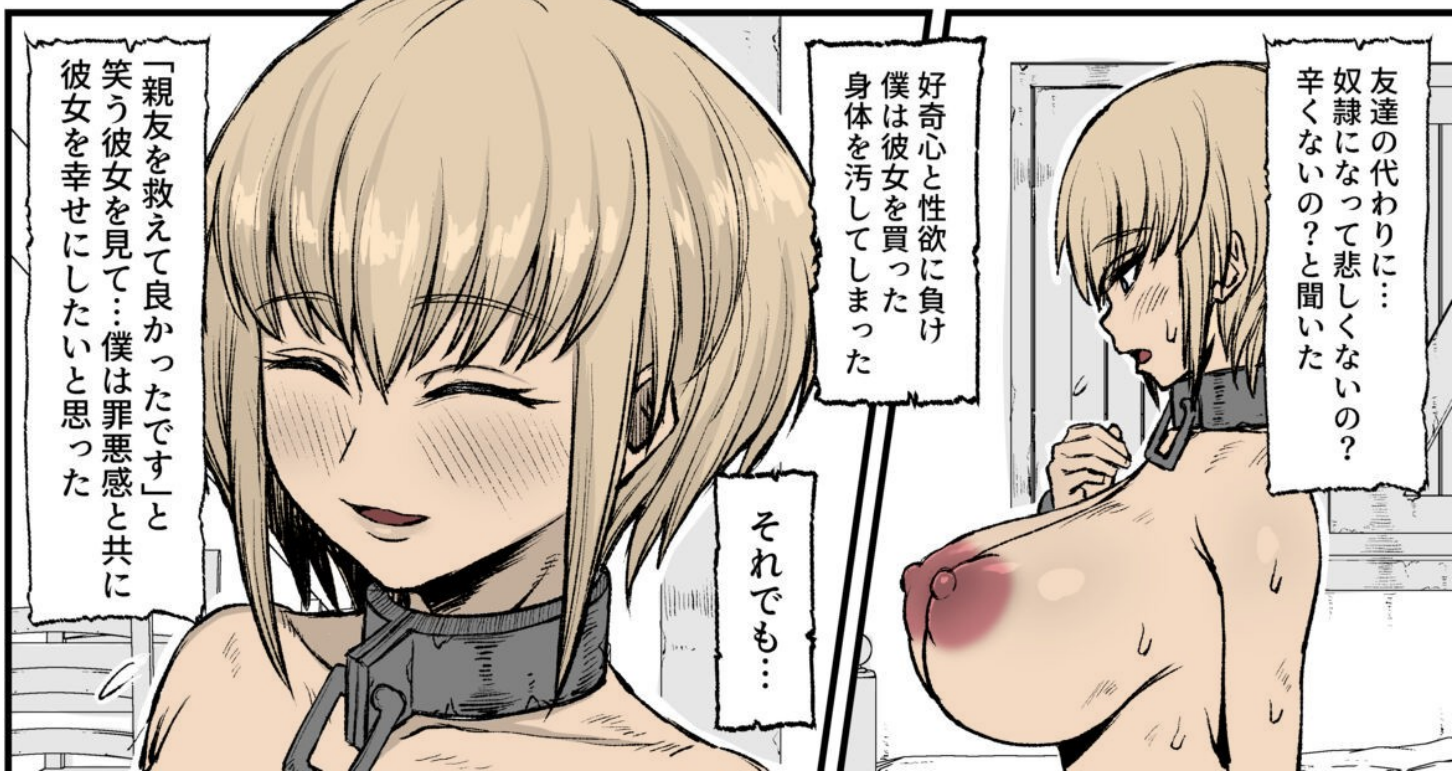


友達の代わりに：
奴隷になって悲しくないの？
辛くないの？と聞いた

好奇心と性欲に負け
僕は彼女を買った
身体を汚してしまった

それでも…

「親友を救って良かったです」と
笑う彼女を見て…僕は罪悪感と共に
彼女を幸せにしたいと思った



僕は彼女を
買った

僕が買った。
僕だけの奴隷

彼女は料理や掃除、雑用は
すべてやってくれている
奴隷商人に教育を受けるらしい

お口に合ったようで
何よりです

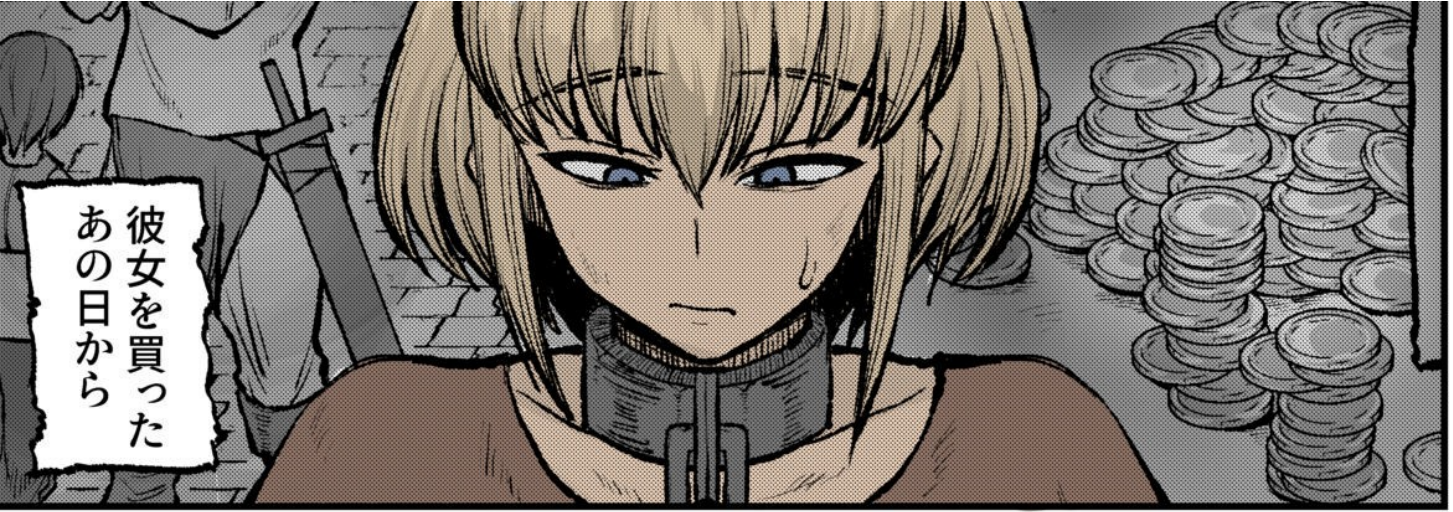
彼女にはこの後も
仕事がある

この後…
いいかな…？

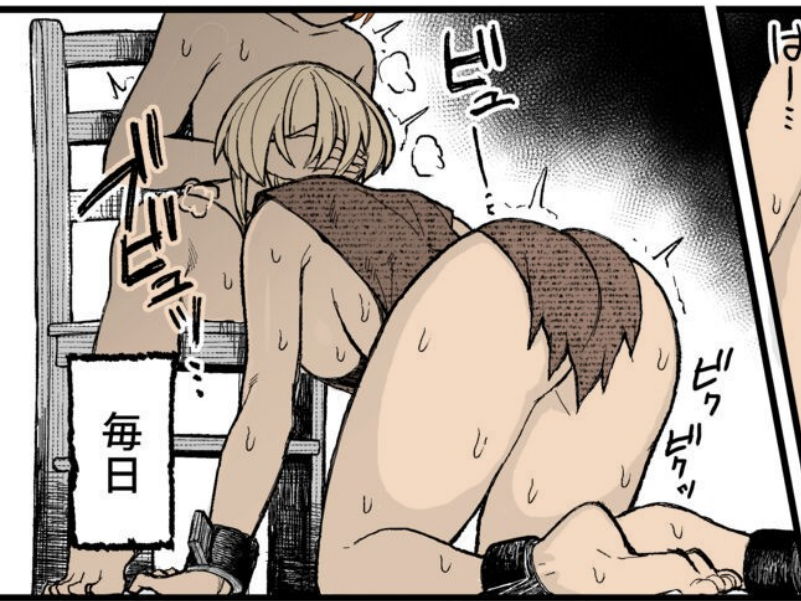
…はい

美味し
かったよ

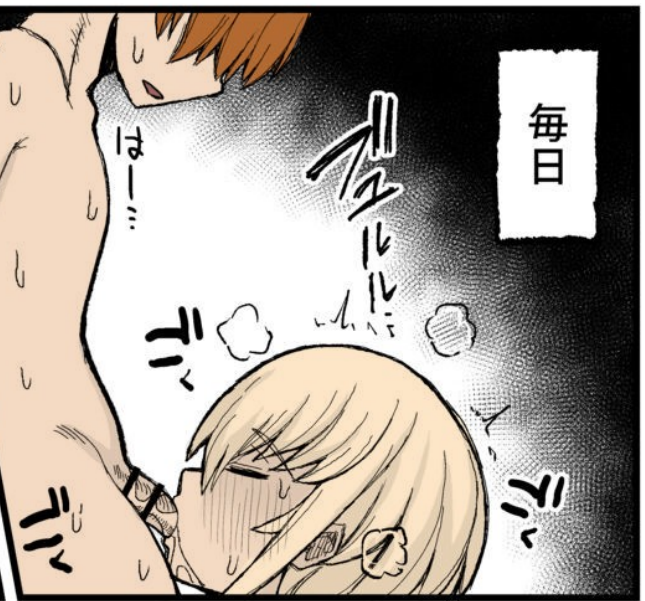
ご馳走様
カマ



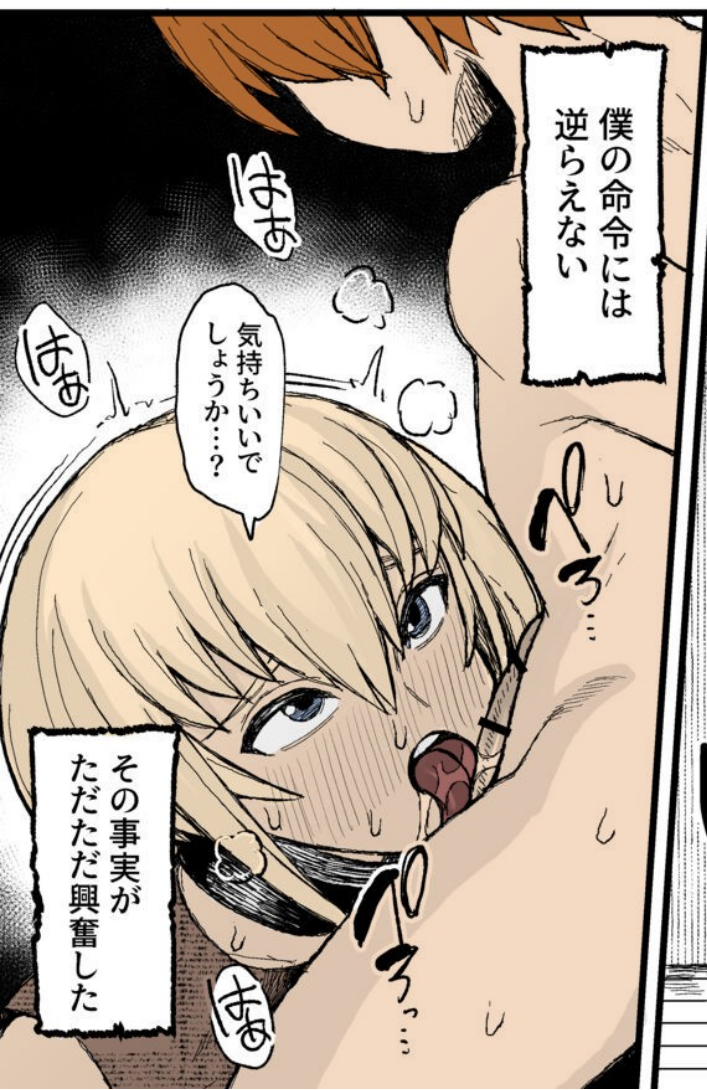
彼女を買った
あの日から



毎日



毎日



僕の命令には
逆らえない

気持ちいいで
しょうか…?

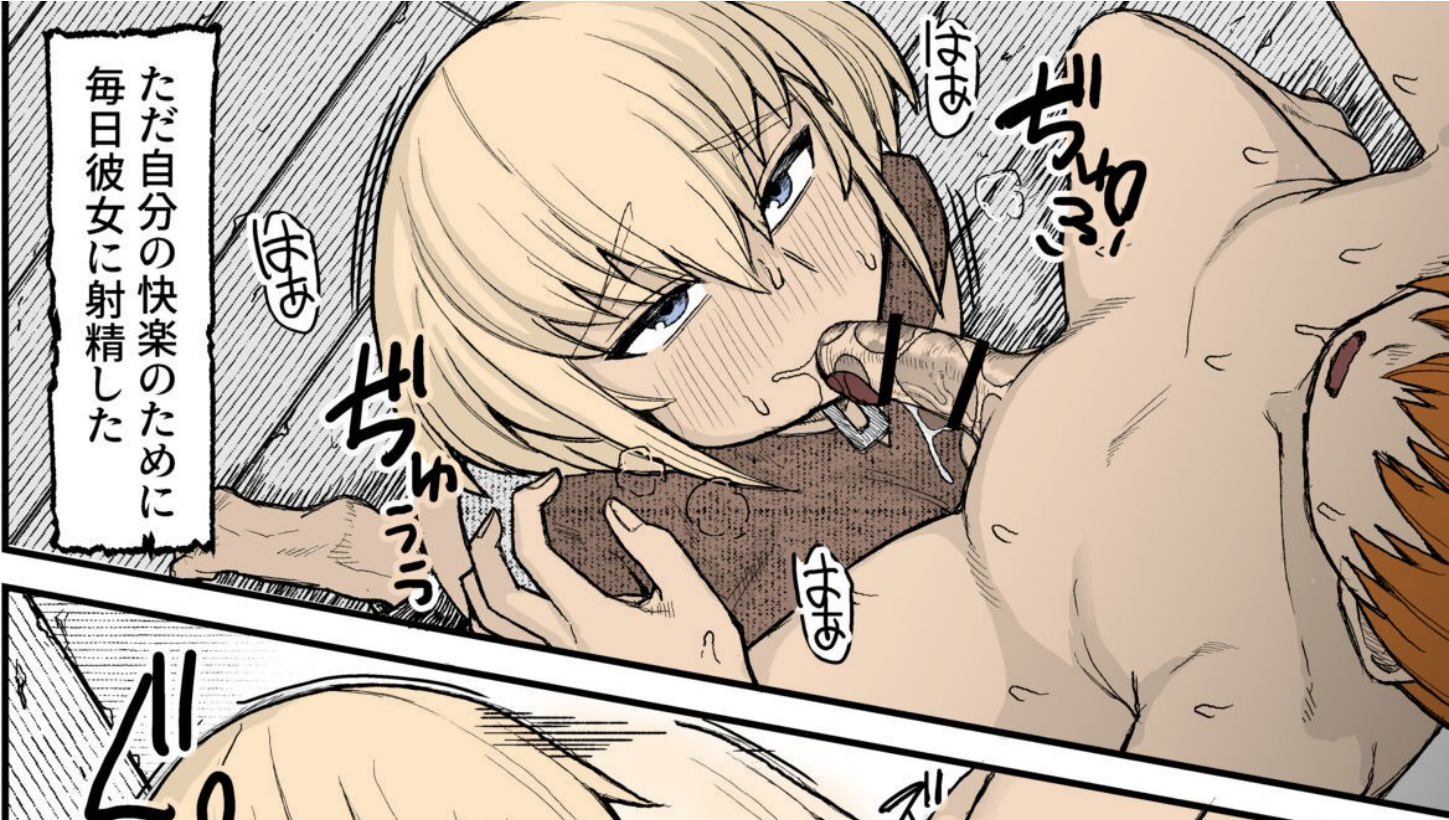
その事実が
ただただ興奮した



僕より体も大きくて力も
強いはずなのになんでも
言うことを聞いてくれる

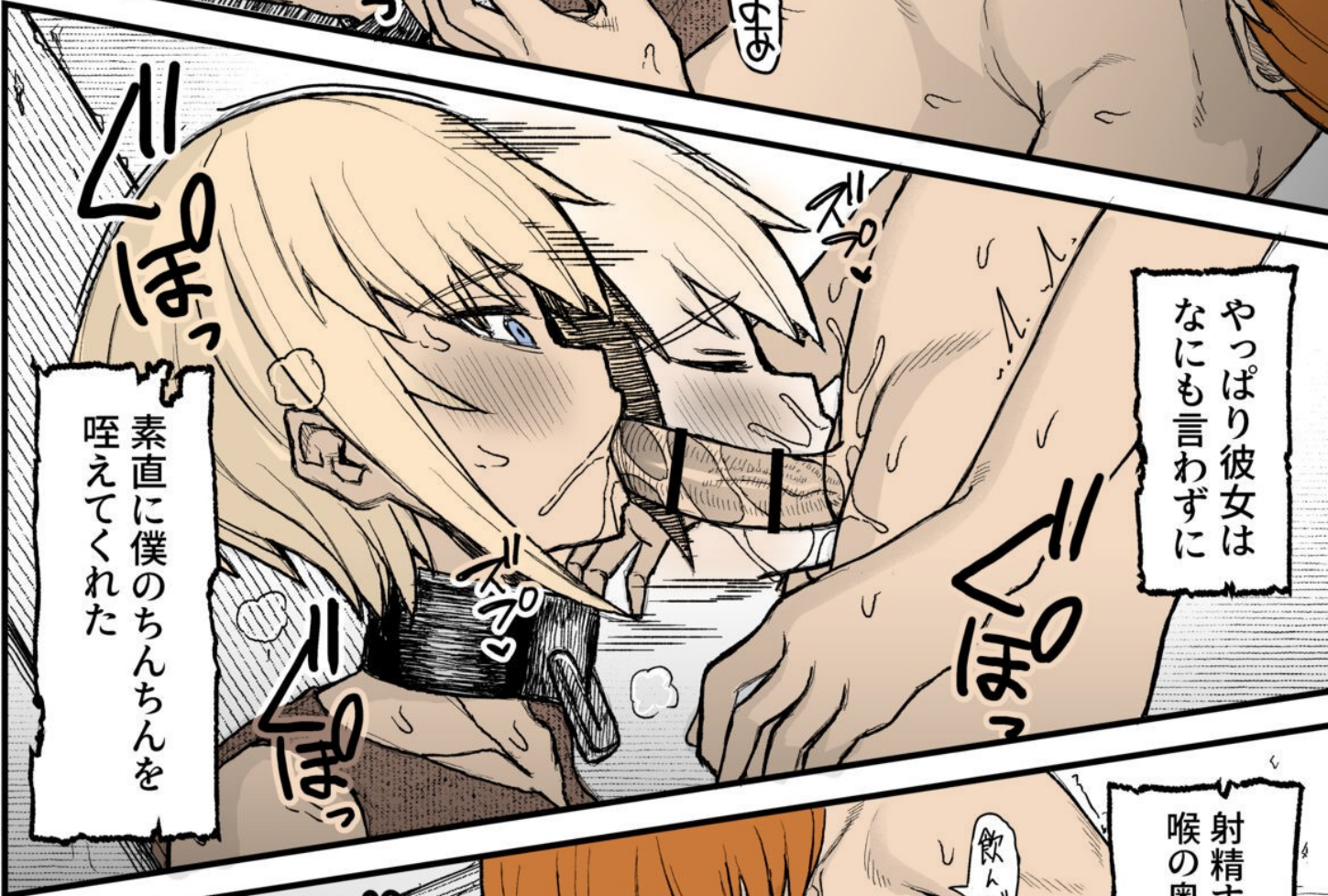
じゅわ…

じゅわ…



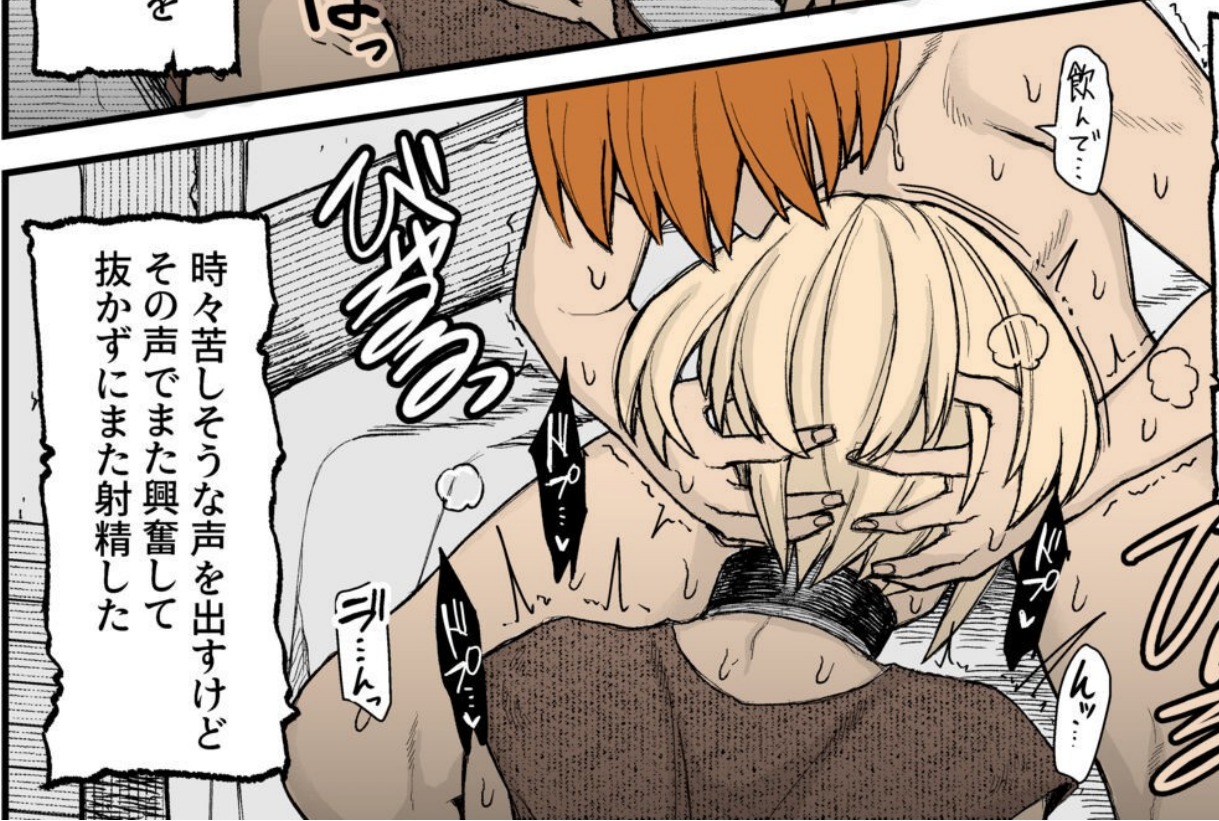
ただ自分の快樂のために
毎日彼女に射精した

やっぱり彼女は
なにも言わずに



素直に僕のちんちんを
啜えてくれた

射精するときはいつも
喉の奥まで入れて射精した



時々苦しそうな声を出すけど
その声でまた興奮して
抜かずにまた射精した



はい…♡

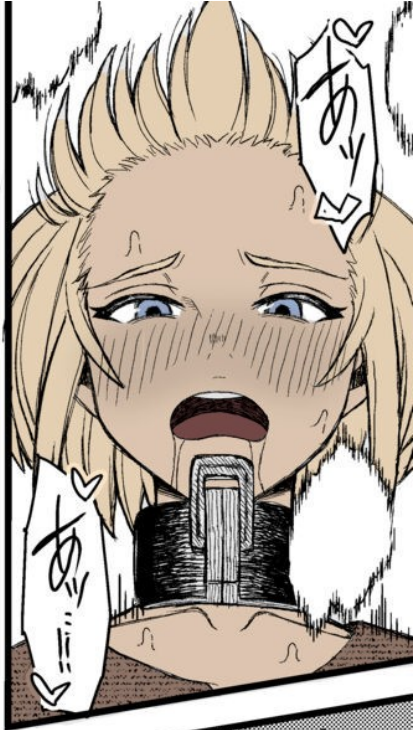
♡…♡

もう…♡出ちゃう…♡

お願い…♡します…♡

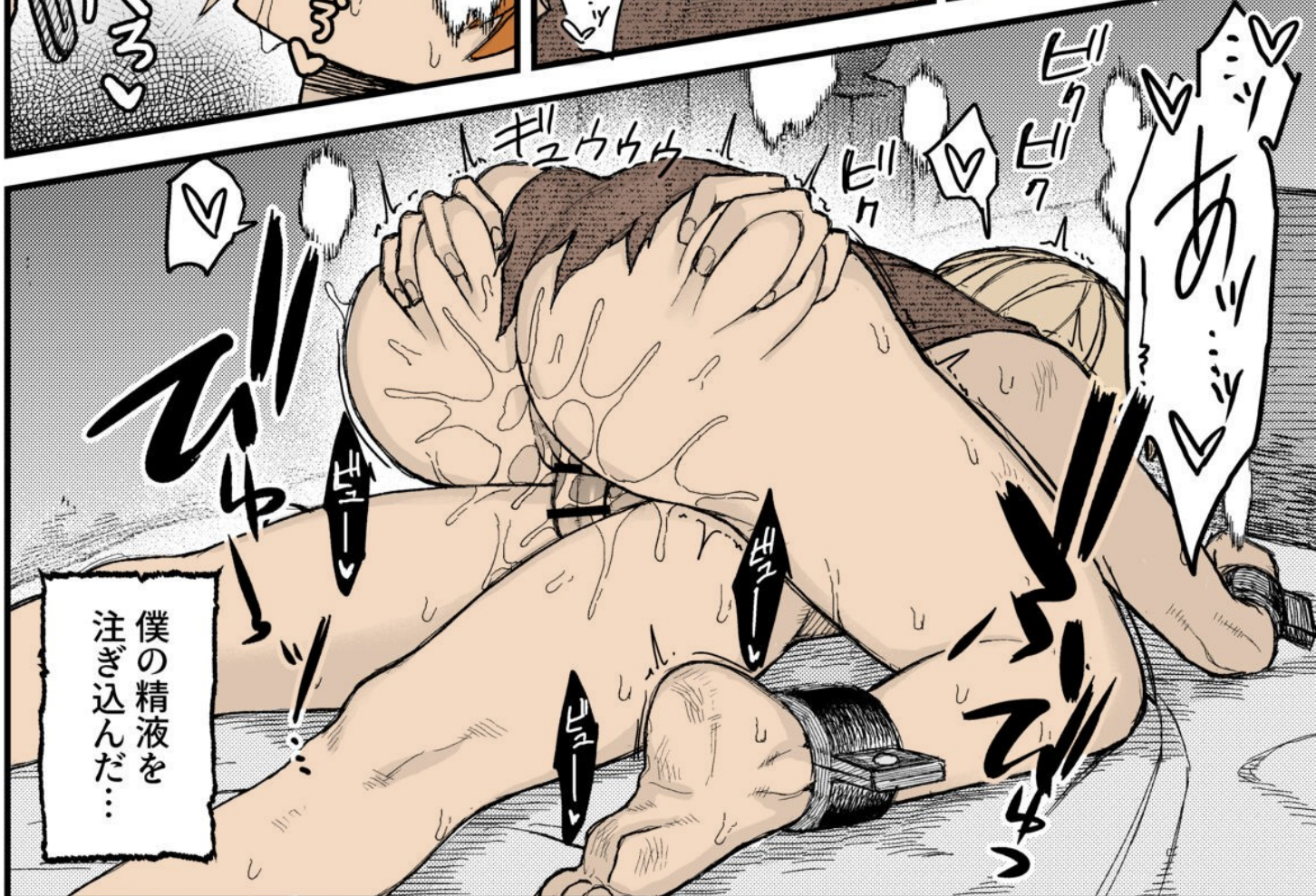


そしてまた
彼女の膣内に…

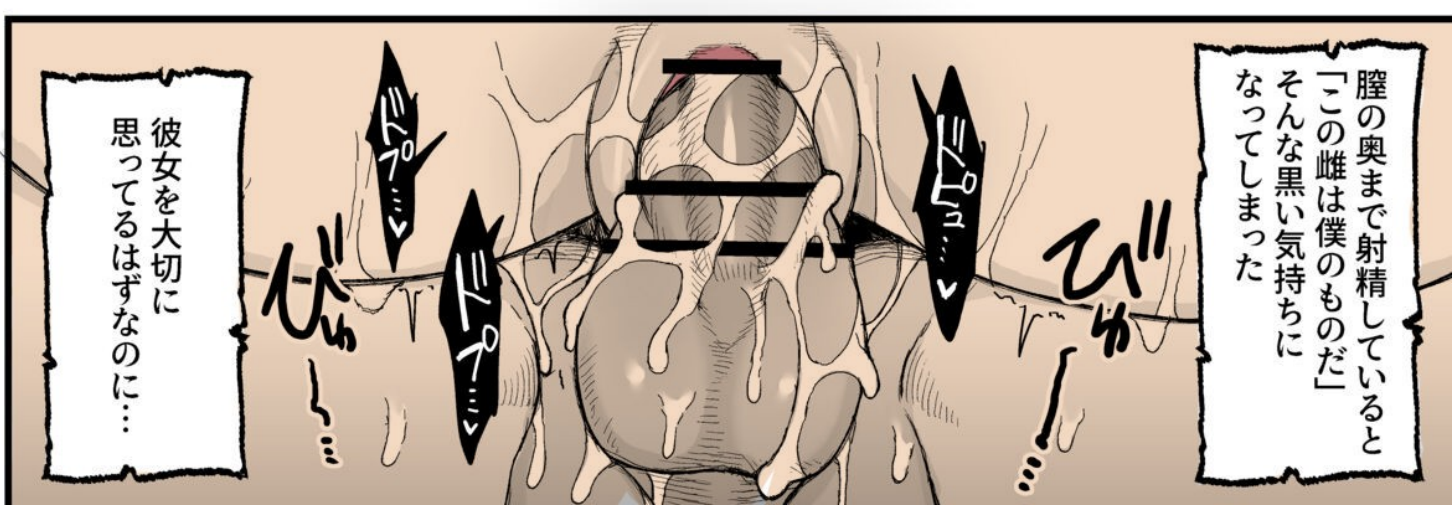


あ…♡

あ…♡



僕の精液を
注ぎ込んだ…



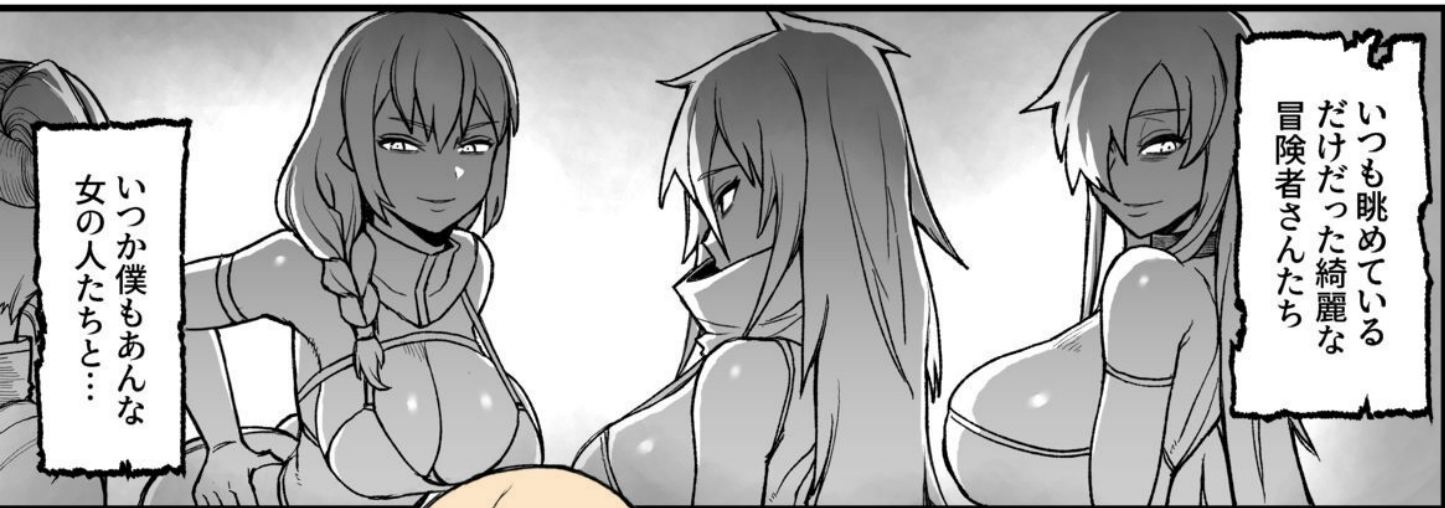
彼女を大切に
思ってるはずなのに…

膣の奥まで射精していると
「この雌は僕のものだ」
そんな黒い気持ちに
なってしまった



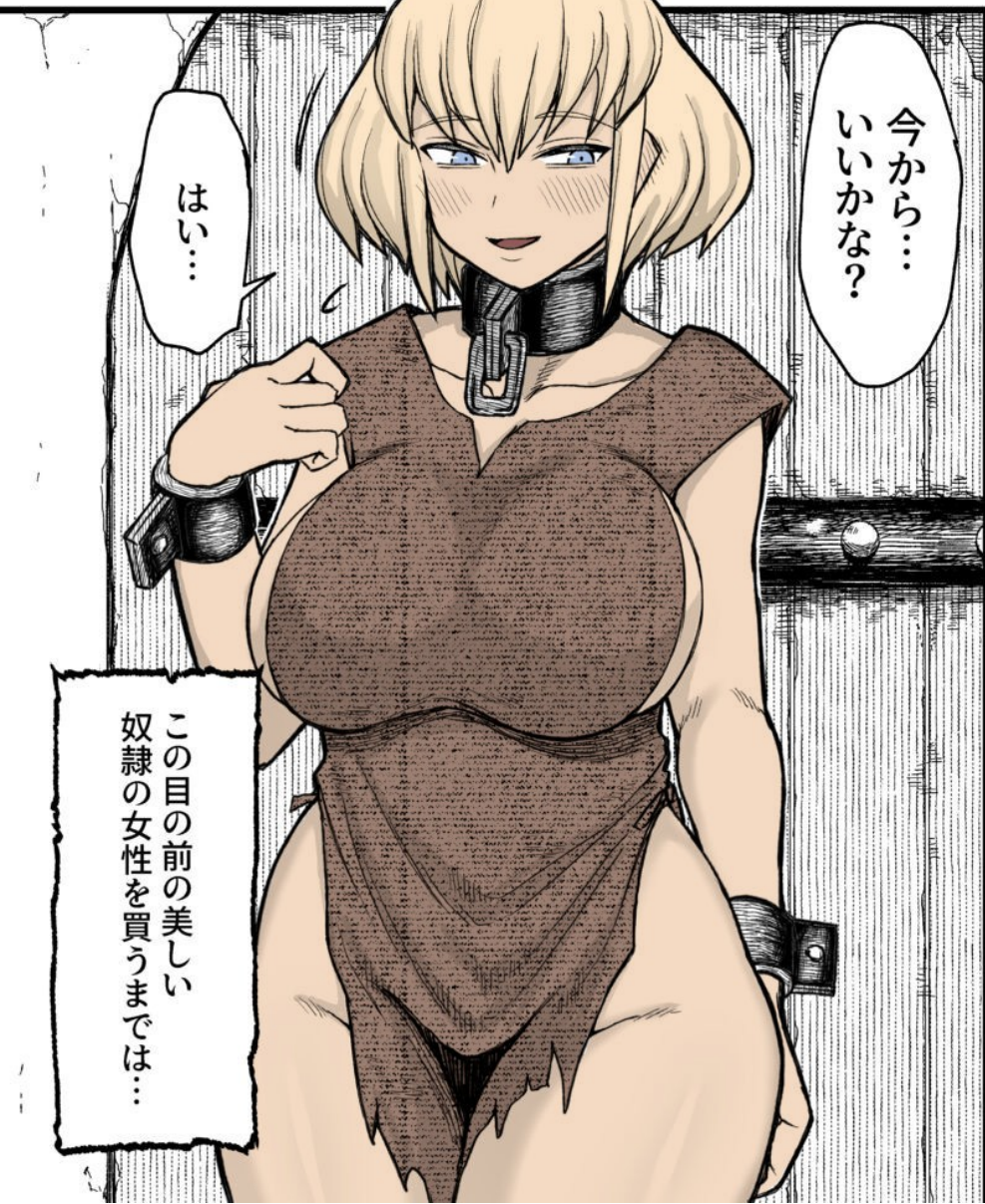
彼女の身体を弄び
色を覚えた
僕の性的欲求は

止まらなかった



いつも眺めている
だけだった綺麗な
冒険者さんたち

いつか僕もあんな
女の人たちと…



今から…
いいかな？

はい…

この目の前の美しい
奴隷の女性を買うまでは…



こんなことばかり
考えていた…

その…

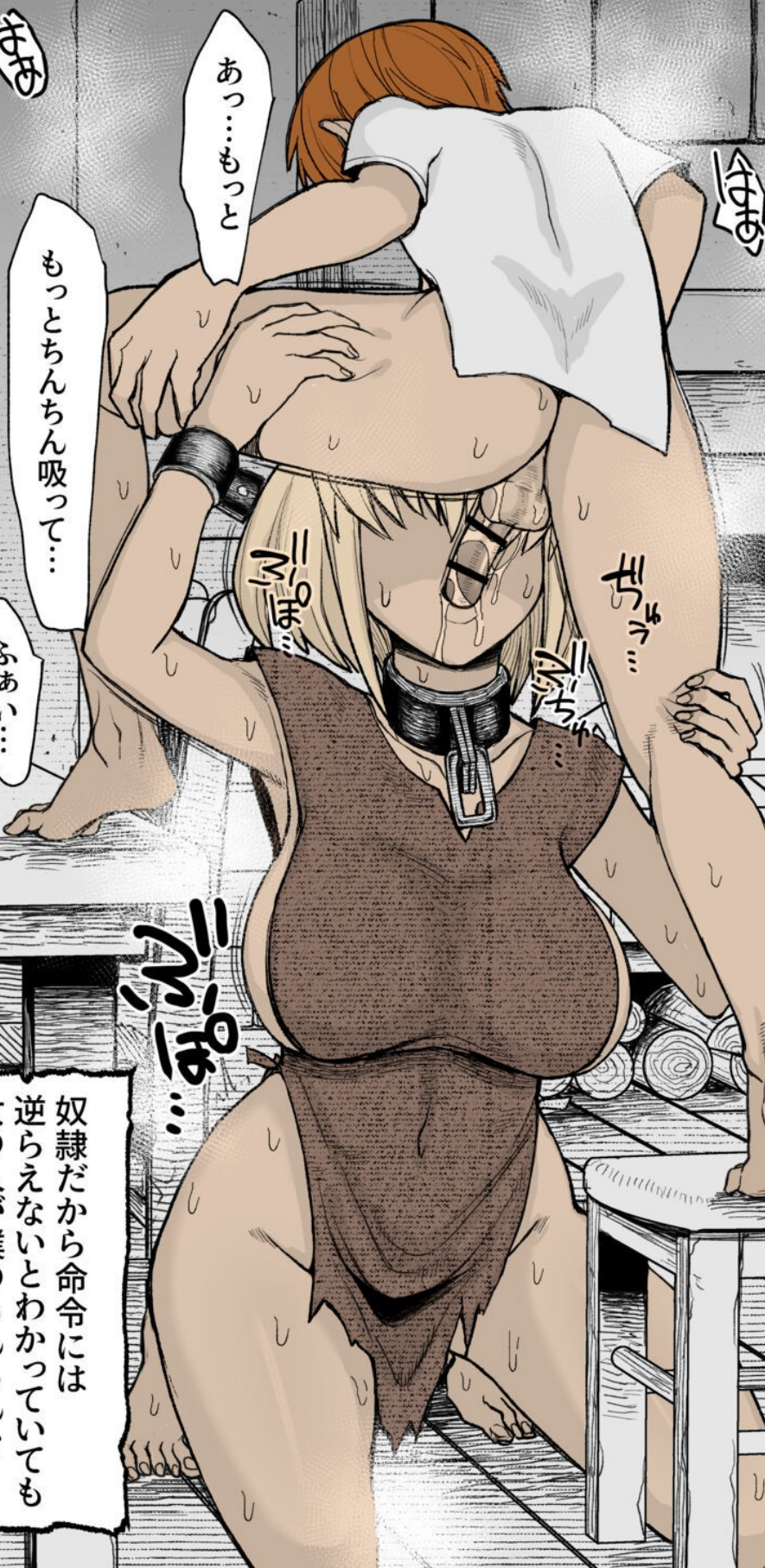


今日もまた彼女に
ちんちんを舐めさせた

んっ...ぶ...

はあ...はあ...

いっほ...



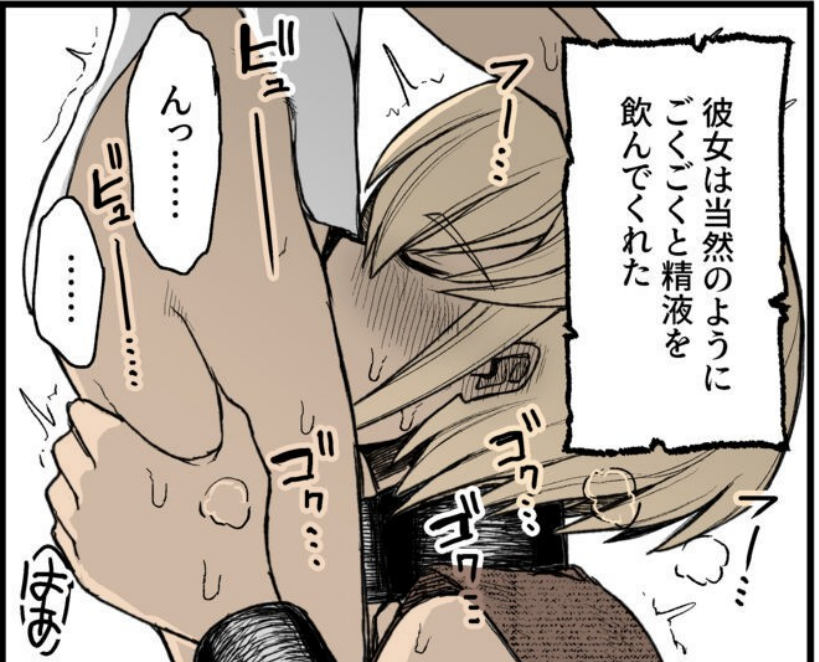
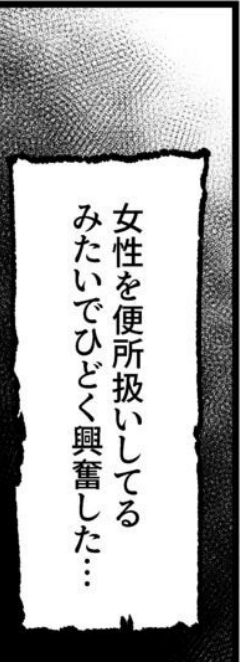
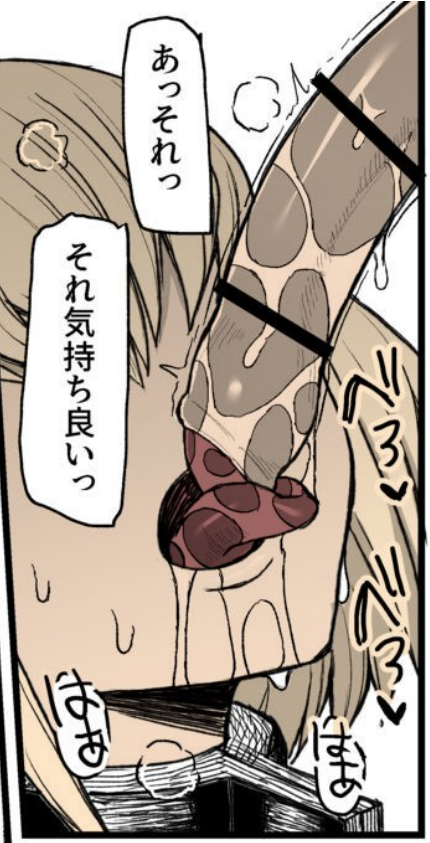
あっ...もっど

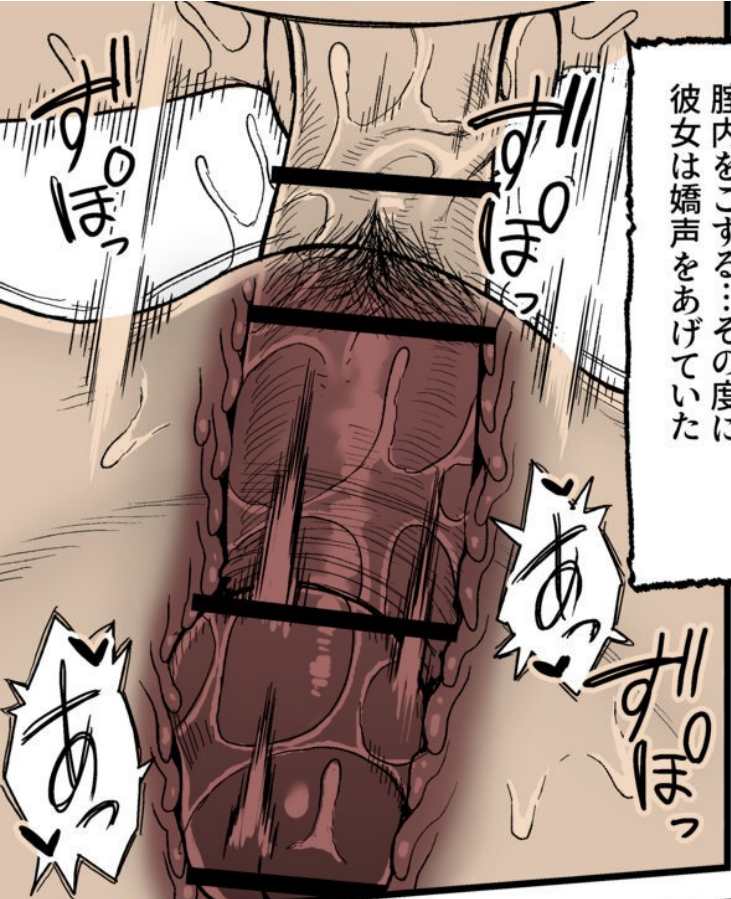
もっどちんちん吸って...

ふあい...

あー...気持ちいい...

奴隷だから命令には
逆らえないとわかっていても
女の人が僕のちんちんを
啜えている姿は興奮した

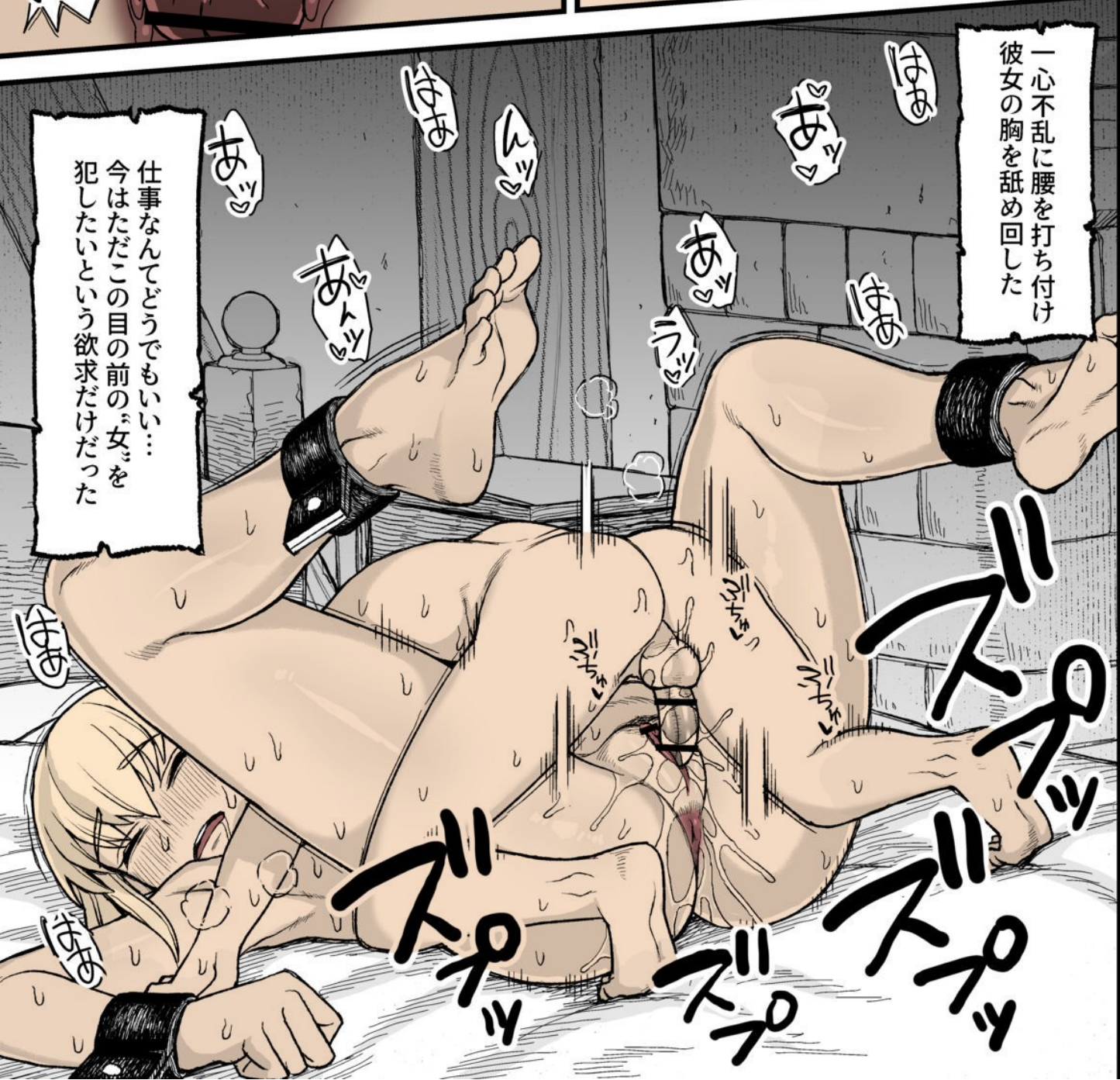




何度もちんちんを出し入れして
膣内をこする...その度に
彼女は嬌声をあげていた

あっ...あっ...

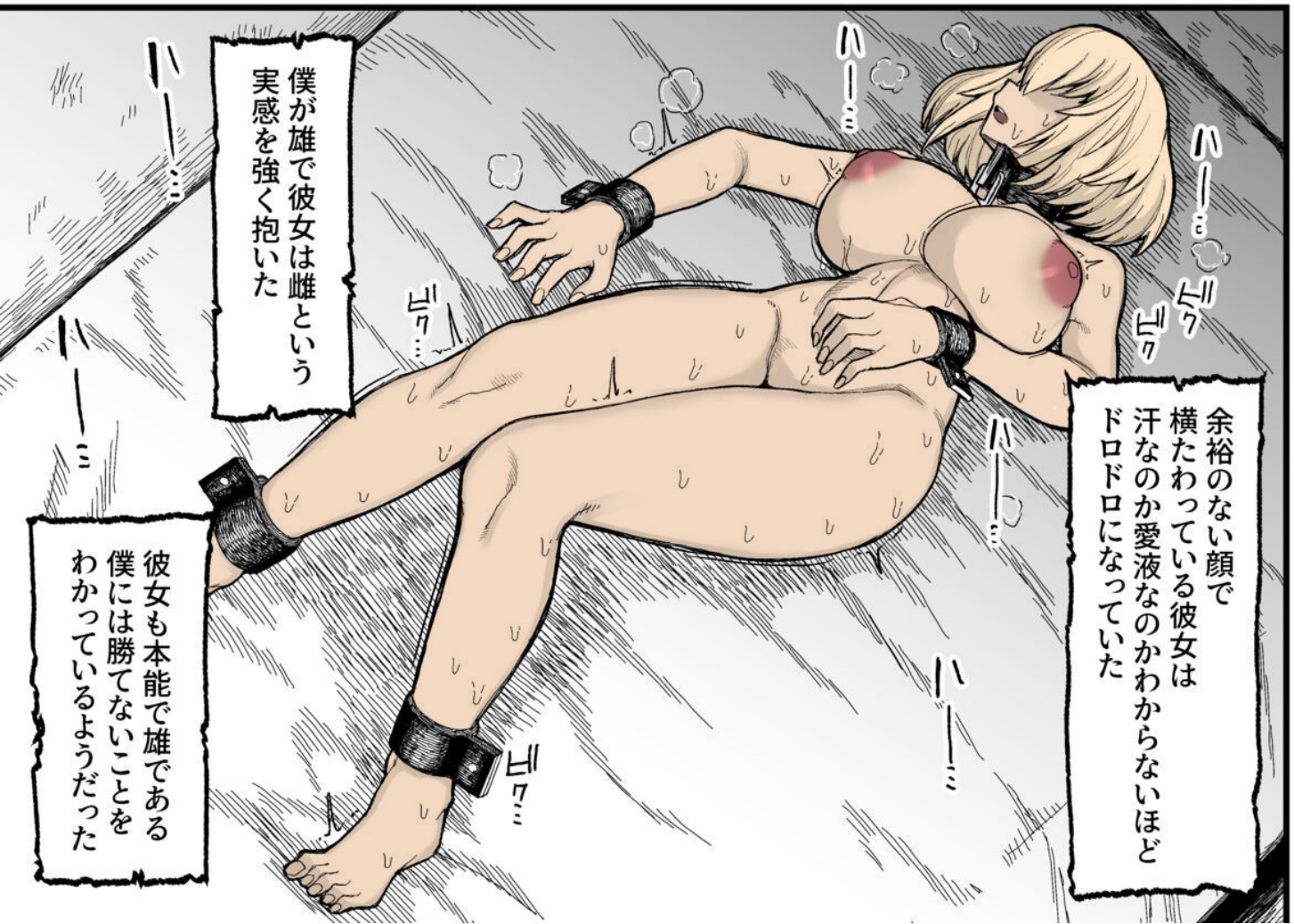
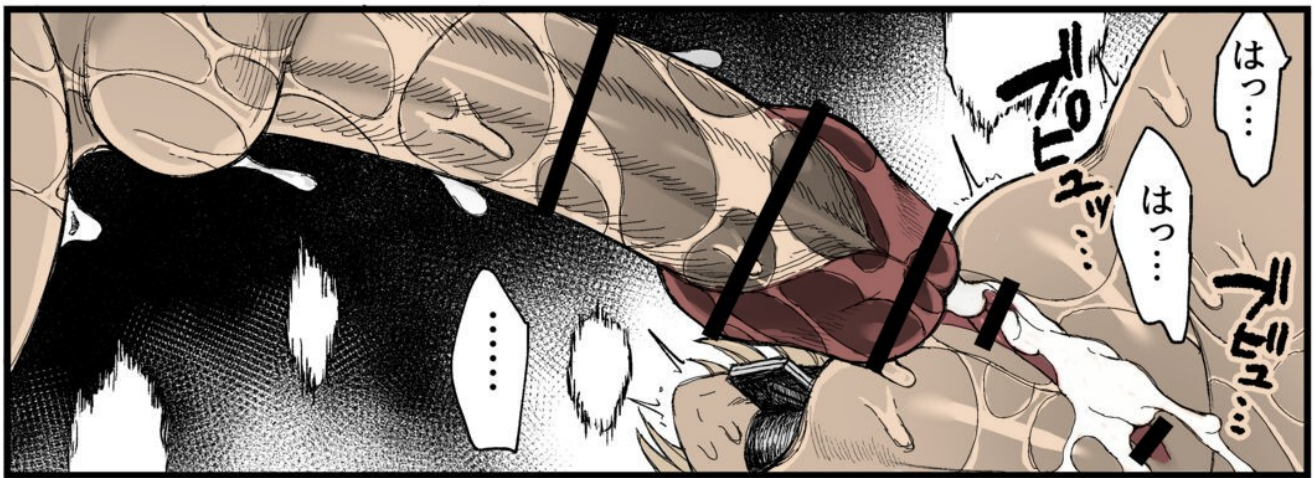
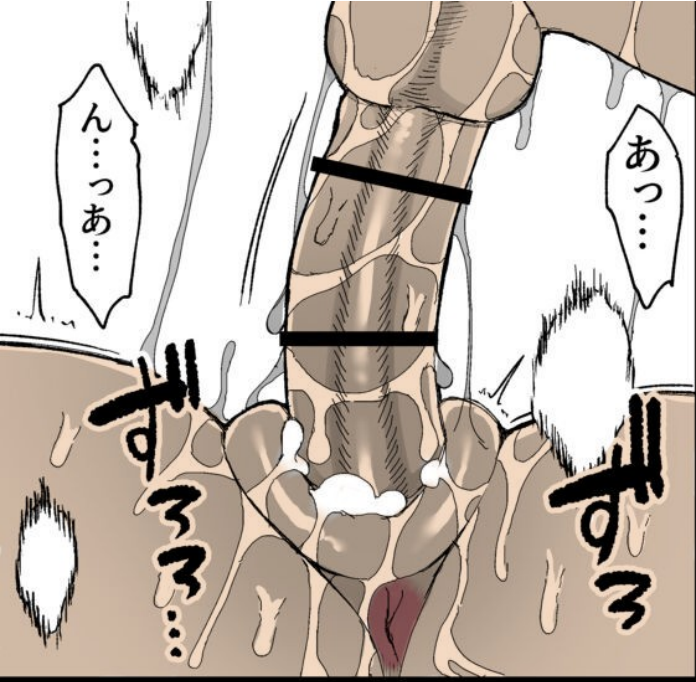
ご主人...さま...



一心不乱に腰を打ち付け
彼女の胸を舐め回した

仕事なんてどうでもいい...
今はただこの目の前の♀を
犯したいという欲求だけだった

ズルッ
ズルッ
ズルッ



僕が雄で彼女は雌という
実感を強く抱いた

余裕のない顔で
横たわっている彼女は
汗なのか愛液なのかわからないほど
ドロドロになっていた

彼女も本能で雄である
僕には勝てないことを
わかっているようだった

大丈夫ですよ

あんなに大事に
しようって
決めてたのに…

どうしよう…
全然治まらない…

わたしは
ご主人様の
奴隷
なんですから…

ね…
だから
どうぞ…
私の身体で
気持ちよく
なってください…

僕は彼女を
買った

僕が買った。
僕だけの奴隷

どうでもいい…
この目の前の「女」を
という欲求だけだった

彼女は料理や掃除、雑用は
すべてやってくれている
奴隷商人に教育を受けるらしい

おっぱい

おっぱい

彼女は当然のように
ごくごくと精液を
飲んでくれた

今日も…
ありがとうございます…

Do you like my job?
Would you like to see
your favorite title
colored?
Write in the
comments.
(No more than 20
pag. for each title)